



この寄稿文を書かせて頂いたのはちょうどタイの旧正月(ソングラン)の頃。夫(写真右)やタマサート大学の研究チームのスタッフと共に、日中40度近かった猛暑をどうにか乗り切りました!!

同大と社大は一九九四年に学術交流協定を締結して以来、環太平洋社会福祉セミナー等を中心に活発な知的交流を行ってきました。また二〇〇八年よ

学部三四期の松本と申します。一九九七年よりタイの首都バンコクに在住し、現在は在タイ日本国大使館に勤務しています。
一九九一年、私は埼玉県主催の青年交流事業で中国

を訪問し、そこで多くのストリートチルドレンに出会ったことがきっかけでアジアにおける児童福祉の現状について関心を持ち、萩原康生教授よりタイでソーシャルワーカーを育成する唯

一の国立教育機関である国立タマサート大学社会福祉学部のデチャ教授(現学部長・夫)を紹介頂いてタイの児童労働に関する卒業論文を提出した後、同大に一年間留学しました。

松本 祥子

「アジアの福祉をリードする社大」に期待



発行所

〒204-8555

東京都清瀬市竹丘3-1-30

日本社会事業大学
同 窓 会

電 話 042-496-3053

振替口座 00100-9-42448

ホームページ・アドレス

<http://www.harajukukai.jp/>

卒業後もずっと社大の一員として日本社会事業大学では、卒業生の方々と充実したネットワークを築いています。本学同窓会は、戦前の社会事業研究生、日本社会事業学校研究科・専修科・専門学校、短期大学、学部の卒業生、そして大学院の修了生の全員で組織されており、同窓会や大学の歩み、会員の活動などの情報を発信しています。



<http://www.harajukukai.jp>

り、社大同窓会熊本県支部長の塘添巨男様はじめ諸先輩方のご尽力により社会福祉現場研修がこれまで五回実施され、参加した同大の学生全員が卒業後ソーシャルワーカーとして活躍しています。
一方、社大からも折々教員や学生がタイを訪れ、最近では今年三月、国際間移住・人身取引問題をテーマとしたスタディツアーに参加した学部生三名と卒業生一名が山口幸夫教授の引率の下、同大のキャンパスや卒業生が運営するNGO等を視察しました。
タイでは国家レベルから草の根レベルに至る社会福祉関連政策の決定・運営の多くに同大の教員や卒業生が関わっています。同大において社大はタイと共通の社会的背景を持つ日本をモデルとした社会福祉政



4月4日、熊本市内で行われた社会福祉現場研修の修了式の様子です。

学生達が約1か月間にわたり様々な社会福祉施設で研修を受け、地元の利用者の方々との交流を通じて福祉現場への理解を深める一方、学生を受け入れて下さっている施設関係者の方々もタイを訪れ当地の社会福祉関連施設を視察されるなど、国際ソーシャルワーク教育におけるグッド・プラクティスになっています。

策研究を進めるためのゲートウェイとして位置付けられており、タイの社会福祉の将来に対し重要な役割を担っています。さらに近年ではAPASWE等を通じてタイのみならずアジア地域における社大のプレゼ

ンスが高まってきており、海外在住の卒業生の一人として「アジアの福祉をリードする社大」に高く期待しています。

松本 祥子 さん プロフィール

●1994年

日本社会事業大学社会福祉学部児童福祉学科卒業

●1995年

タイ国立タマサート大学社会福祉学部留学(研究生)

●2000年～

在タイ日本国大使館勤務(現地職員)

日本文化紹介・青少年交流・スポーツ交流事業、広報(情報発信)、メディア対応等を担当。

同窓生通信 1



上 垣 真 人 さん
(専門職大学院 2 期生)

卒業後、埼玉県内の特養で、総務や地域包括の仕事をしておりましたが、縁があつて社大周辺の地域を担当するきよせ信愛地域包括支援センターで仕事をさせて頂いております。

信愛は、明治四十二年にある牧師が「神よ願わくば我等を憐み給え。：毎月十銭宛集金して不幸なる孤独の肺患者を助けんと祈願あり」と祈り、献金を呼び掛けたことから始まりました。この、一人の孤独の方を支えたいという想いを今も大切にしていると感じたのが信愛に来たきっかけです。

社大を含む担当地域は清瀬市内でも高齢化率が高く、市内の他の包括と比べて対応する件数が一・五倍～二倍あるという地域

です。一人暮らしの方の数も多く、日々多くの相談が飛び込んできます。そのひとり一人に、私たちは時に何カ月も、何年も時間をかけながら寄り添い、近くなり、遠くなりしながら信頼関係を作つて、タイミングを見計らつて働きかけをしています。

二〇二二年に地域の自治会連合の方々と「うめのたけ」という月間の新聞(発行部数約三〇〇〇部)を立ち上げました。内容は地域のサークル、活動取材するとともに、社大の学祭や地域のお祭りなどの記事を書かせています。メンバーの病气や転勤などで入れ替わりはありますが、三年目に入ることができたことは感謝です。

人を支えるという仕事

【プロフィール】

- 東北大学大学院農学研究科を修了
- 業務・システムのコンサルティングに勤務
- 2006年専門職大学院修了
- 埼玉県内の社会福祉法人に勤務
- 2010年より信愛報恩会「信愛の園」に勤務在宅4部門のセンター長

は、まずは心に寄り添う

仕事であると考えていま

す。そこから、思いもよら

ぬ力が湧いてくるというこ

とを見てきました。私自身

困った時には助け手があ

らわれるようになってい

よう、地域に暮らす方

地域で協力して下さる専

門職の方々、そして職場の

仲間たちに支えられてこ

の仕事を進めています。私

もまた助け手の一人として

寄り添つて支えていければ

と願っています。

今年で三年目になりま

すが、担当地区の地域包

括として、地域福祉の授業

で話をさせて頂いておりま

す。十分ではありませんが

現場の様子を学生の皆さ

んに伝えていければと思っ

ています。

同窓会通信 2



駒 井 沙 耶 さん
(学部51期生)

今年の四月で社会人三年目となりました。社大で

過ごした内容の濃い日々は

昨日のことのように思い出

されます。私は北海道の出

身で、高校時代に進路を悩

んでいる時に、進路指導の

先生から「東京で福祉を学

ぶなら社大が良い。」と勧

められたのが私と社大との

出会いでした。社大に進学

しなければ、今の私は無

かったと思うので、その先

生には大変感謝しています。

在学中は障害者福祉を

専攻し、佐藤久夫先生、平

野方紹先生には大変お世

話になりました。

卒業論文では、約一年間

ほど某地方自治体に密着

取材をさせていただき、先

駆的な障害者条例の意義

と課題を策定過程から考

察しました。この卒業論文

で体験した事がきっかけと

なり、地方公務員になり

たいと思い、特別区採用試

験を受験し、福祉職(Ⅰ

類)として文京区役所に入

区しました。

私が配属された生活福

祉課は、生活保護の業務

を主に、生活困窮者に対

する支援を行っています。

私はケースワーカーとして

約百世帯を担当し、生活

保護受給者の自立や日常

生活を支える仕事をして

います。平野先生から「生

活保護は福祉の原点だ。」

というお言葉を頂きました

が、日々の業務の中でま

さにその通りだと実感し

ています。高齢者、障害者、

傷病者、DV被害者、母子、失業者、その他の世帯等、様々な方が受給している中で、当初は新卒の私にケースワーカーが務まるのか不安でしたが、職場の方々にも恵まれ、現在は様々な課題と向き合いますが、日々精進しています。

当課は職員の約一割が社大卒業生で、どの課よりも社大卒業生の割合が多いため、大学時代の話で盛り上がることもあります。また、毎年社大の実習生を受け入れていることや社大の文京キャンパスが区内にあること等、卒業してからも社大との繋がりを感じています。

今後も大学で学んだことを日々のケースワーク業務に生かし、受給者に寄り添った支援をしていきたいと思っています。

【プロフィール】

- 北海道出身
- 趣味は旅行、カフェ巡り
- 在学中はバレーボール同好会とTAFに所属
- 2011年／社会福祉学部福祉援助学科卒業
- 卒業後、文京区役所に福祉職(Ⅰ類)で入区

同窓生通信 3



西尾 直子さん
(学部40期生)

私は、社大卒業後より

全国自立生活センター協議会という、重度の障害を持つ方々の地域生活をサポートしている自立生活センターの全国連絡協議会に勤めています。

二〇二二年三月十二日。東日本大震災の当日、私は八王子にある職場で会議中でした。その日から、怒涛の日々が始まったのです。当会には、岩手、宮城、福島にも複数の加盟団体・関係者があり、何より三県の各自立生活センターでは重度の障害がある方の地域生活を多くサポートしています。津波・地震・原発事故と複数の災害が重なり、呼吸器などの医療機器を必要とするような重度障害者の地域生活はどうなってしまうのか？あまりの被害の甚大さに愕然と

したことを覚えていました。

私の職場では、震災直後に被災障害者の支援を担うため「東北関東大震災障害者救援本部」を複数の障害者団体と共同で立ち上げました。障害があるということとは、緊急時には普段以上のハンディになります。震災直後は現地からの要請を受け、おむつやカテーテル、流動食など障害固有のニーズに基づいた救済物資の搬送を中心とした活動でした。「避難所」みなさんに迷惑をかけるから避難できなかった」「この地域にはほとんど障害者向けのサービスがないし、家族も障害者の存在を隠す文化だから、震災がおきても地域の人は誰も障害者の存在を知らないし助けてはくれない」救援活動を通じて何度

も現地に入り、被災障害者の思いや経験を聞く中で、福祉サービスの地域間格差を痛感しました。

風景がもとに戻るにつれ、また時間と共に私たちの記憶は薄れてしまっています。そこで、被災障害者が直面した困難をドキュメンタリー映画として製作することを企画しました。この映画は、震災三ヵ月後から撮影を開始し、一年半の製作期間を経て「逃げ遅れる人々〜東日本大震災と障害者〜」という作品として完成することができました。現在は、各地での上映活動に取り組んでいます。この作品と共にこの震災で得た教訓を後世に残していきたいと考えています。

【プロフィール】

- 香川県高松市生まれ
- 2000年 児童福祉学科卒業。佐藤久夫ゼミ
- 卒業後、全国自立生活センター協議会に就職
DVD「逃げ遅れる人々〜東日本大震災と障害者」販売中
お問い合わせ先：
東北関東大震災障害者救援本部
TEL:042-631-6620
FAX:042-660-7746

同窓生通信 4



竹之内 章代さん
(学部30期・大学院2期生)

大学、大学院と六年間の大学生活を原宿と清瀬で三年ずつ過ごしました。自閉症のことを学びたくて原宿の社大の門をくぐり、恩師の石井哲夫先生と出会い、良き学友に巡り会えたことが、今の私の原点となっています。

現在は、茨城県で特定非営利活動法人の代表として、地域での障がいがある子どもから大人までの相談支援と、日中活動や余暇活動の提供、療育相談や支援の提供を中心に活動をしています。これらは社会福祉士としての私の実践活動の場でもあります。また、県の社会福祉士の代表として、社会福祉士の社会的認知とスキルアップ、県民の福祉向上のため、会活動に参画して

います。これらの実践や活動を通して考えるのは、二十数年前学生だった頃と今の障がいがある子どもや大人達の状況は変わったのだろうか。あるいは、援助者としての私たちの質の向上は図られてきたのだろうか。社会のまなざしは少しでも変わったのだろうかという事です。この部分にも関わりたくて、社会福祉士の養成と現任の職員研修を大学の教員という立場で行っています。

周りからは「いつも忙しく大変ですね」、「モチベーションをよく保っていますね」と言われますが、私にはそのような意識がなく、ただやりたいことをやってきたら今の状態だったというのが正直なところです。でも、敢えて答

えるのであれば「私がこの人だったらどうしてほしいか」「あなただったら何に幸せを感じるか」を自問すると、まだまだやらなければならないことや発信しなから仕事や活動をし、仕事や活動をすればするほど、たくさんのお会いがそこそ続けられるのだということです。

是非、現役の学生の皆さんにも情熱を持ってこの福祉の世界に飛び込んで欲しいと思います。そこには、すばらしい出会いが必ず待っています！

【プロフィール】

- 1990年3月学部卒業（児童福祉学科）／同年社会福祉士取得
- 1992年3月大学院修士課程修了
- 1993年より地域での障がいがある子どもと親の相談を開始
- 2002年より特定非営利活動法人スペース空として認可
- 現在は、特定非営利活動法人スペース空代表、一般社団法人スペース空理事長、東海大学健康科学部社会福祉学科講師。また、成年後見人として7人の知的に障がいのある方達の後見活動を行っている。

手話

Sign language circle TEMARI

サークルてまり

新歓パーティーの時の
黒板の装飾



手話サークルてまりって??

てまりは様々な曲に手話をつけて学内学会や学祭で発表します。みなさんは手話コーラスを見たことはありますか? 「手話コーラス」と聞くと、聴覚障がいをもつ人のためのものと思うかもしれませんが、でも、私たちは「聞こえる・聞こえない」に関係なく、みんなで一緒に音楽を楽しむ手段の一つと考えています。

手話コーラスは歌詞を手話に変えたものという認識もありますが、音楽というのは歌詞だけで成り立っているわけではありません。歌詞、曲のリズム、曲調などなどいろいろなものが組み合わさっています。私たちは手話や身体の動き・表情などでそれらを表現し、聴くのととはまた違った音楽の楽しみ方を伝えられたらいいなと思いながら活動しています。少しでも見てくださる方の心に届くような手話コーラスを発表していきたいと思っています。

代表がみんなに手話を
教えているところです。

2年生です。春合宿にて。
(これで全員ではありませんが……)
左から二番目が代表田中、三番目が副代表桑内。



新歓パーティーです!
1、2年生ほぼ全員でーす! 1年生たくさん入ってくれました。



春合宿のときの写真です。群馬県に行きました。

活動メモ

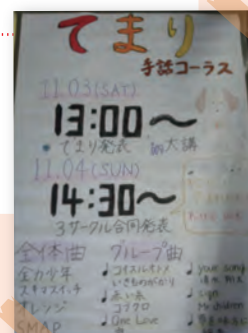
- 2012 年 4 月 サークル紹介
体験練習
- 5 月 学内学会に向けた練習
- 6 月 学内学会サークルセッション
- 8 月 夏合宿 (学祭に向けての練習)
- 9 月 学祭発表
- 2013 年 3 月 春合宿
- 4 月 サークル紹介
体験練習
- 5 月 学内学会にむけた練習
- 6 月 学内学会サークルセッション

これからの活動

今後は学祭での発表に向けて練習をしていきます。見てくださる方々に感動を与えるようなステージにしたいと思います。

去年の学祭の看板。
ミニ大福を売りました。
大好評でした。

去年の学祭の
発表広告の看板です。



練習風景です。みんな真剣に手話を学んでいます。

練習風景です。真剣なまなざしで練習中。

学部32期（92年卒）同期会

思いでの地・原宿で開催

原宿校舎ならびに昭和最後の学部入学生となる私も88年度生は、2013年2月10日に、思い出の地原宿にて同窓会を開催いたしました。過去2回同窓会を開催していましたが、14年振りの今回は、初めてお世話になった先生方もお招きし、88年度生32名の参加のほか、京極高宣先生、佐藤久夫先生、中島紀恵子先生にもご臨席を賜り、盛況のうちに終了いたしました。卒業以来の再会に歓声があがり、それぞれの仕事や育児の話に盛り上がり、数年、数十年振りとは思えないほど学生時代同様の熱い語り合いで、あっという間の2時間でした。出欠の返事と合わせていただいた近況を冊子にし、配付・送付したメッセージ集も好評でした。



田村 稔

学部6期クラス会(66年卒)を開催

次は2年後に名古屋で

多くの方が70歳を迎えた2013年3月23日に、日本社会事業大学6期のクラス会を東京の鉄道弘済会で開催しました。当日は、北海道、沖縄をはじめ全国から27名の方が参加し盛会でした。卒業以来47年ぶりに会う人もいましたので、ネームプレートを用意しましたが、時間を一瞬に乗り越え懐かしさが弾みました。当日は元学生課の伊藤さんが出席してくださり、現在の社大の様子などをお話いただきました。また、当日の午前中に原宿の社大跡地を訪ねた参加者から、竹下通りの変貌や、社大女子寮への坂道が残っている程度で全て変わっていた事の報告がありました。大変残念なことですが多くの逝去されたクラスメイトに黙祷を捧げ、その後、参加者一人一人が、卒業以降から今日までの話しをしましたが、楽しく懐かしい充実した時間になりました。次回は、2年後に名古屋あたりで開く事になり、2年間で元気に過ごし、皆で参加する事を確認しました。

和田敏明

卒後47年目の同期会

30年ぶりに「アゴラ7号」※も発行

卒後47年目の同期会。総勢24名中、確実に連絡が取れた方14名が参加。昨年古希を迎えた若手3人が幹事となり、最高齢86歳の方を頭に、南は熊本、北は岩手から駆けつけ、思いがけず、同窓会顧問伊藤博胤氏にもご出席いただき、短い時間を惜しんだ。現役、地域活動・ボランティアなど全員が今も何かしら社会福祉に関係していた。あの頃、仕事として福祉を選んだ方々の自然体の“肝の据わり”をみた思いだった。新幹線最終便を待つ会員と一緒に新宿西口の二次会では、今の福祉について議論彷彿、次の再会を約束、散会した。

鈴木孝子

※日本社会事業学校研究科20期（昭和41年・1966年卒）同窓会誌名

第2回松窓寮同窓会のお知らせ

松窓寮同窓会をやります！

2011年、長年寮生を支えてくれた国安幸代さんが、長年の寮生との思い出を綴った書籍を自費出版されました。

そんな国安さんの「みんなと会いたい！」との声に応え、出版記念を兼ね2011年8月20日に大学の生協喫茶にて松窓寮同窓会を開催しました。



2011年8月（第1回）

於：大学生協喫茶国安元管理人を囲み、30名が参加

同窓会に開催しました。30名程度の参加でしたが、久しぶりの再会に大いに盛り上がりしました。そして今年「またやってよ！」と国安さんの声に応え、第2回松窓寮同窓会を開催します。開催日は下記の通り、場所は清瀬で調整中です。

開催日時：2013年10月13日（日）午後

詳細は決まり次第ご連絡しますので、興味のある方は

at4371613@yahoo.co.jp 宛に「名前・メールアドレス・入学年度」をメールしてください。よろしくお願いします。

95年度生 深澤昌子／96年度生 遠矢充宏

茨城県支部

総会・講演会・懇親会を開催

7月21日に茨城県結城市にて開催しました。総会では、参加者が15名で大学と同窓会本部の近況報告、支部の事業報告等を行いました。講演会では「児童福祉の今日的課題」という演題で、社大大学院教授である山下英三郎先生から、スクールソーシャルワークの働きや課題等についてお話をいただきました。



講演には茨城県社会福祉士会、結城市教育委員会など地域の方々加わり、総勢31名で研修を深めました。懇親会では、旧交を温める会員や新たなネットワークを開拓する会員など有意義な時間を過ごすことができました。講演をいただいた山下先生には、ご多忙の中、貴重なお話をいただき、厚く御礼申し上げます。また、東日本大震災に際し、大学、全国の同窓生の皆様からたくさんのご支援をいただきましたことにつきまして、深く御礼申し上げます。

上田 忠義

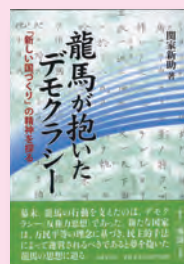
少数言語としての手話

著者：斉藤 くるみ

発行：財団法人 東京大学出版会



教員・卒業生が書いた本



龍馬が抱いたデモクラシー —「新しい国づくり」の精神を探る

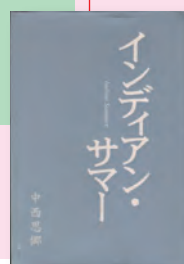
著者：関家 新助

発行：株式会社 法律文化社

インディアン・サマー

著者：中西 思郷

発行：中西和代



2013年本部・支部合同市民公開セミナーについて

福 島

日社大同窓会福島県支部が開催する 市民公開セミナー

福島県民15万人の被災者・避難者には支部会員も含まれていて、福島の復興・再生は、日々状況が変わってゆく中で、大変きびしさが増えています。2年余を経てみれば、単に『フクシマの問題』ではなく、『日本社会の課題』と言えます。多くの同窓生の皆さんに現状を知っていただき、知恵と意気をいただければ幸いです。

テーマ

東日本大震災2年後に見えたもの(仮)

—— 復興・再生を願って ——

日時：2013年12月14日(土) 9:30～16:30

会場：郡山ビューホテル(郡山市中町)

● 講演

① 災害支援・復興活動の課題と展望(仮) / 日社大理事長 潮谷義子

② 再生を求める市民(仮) —— 講演者未定

● 厚生労働省の東日本大震災報告書について

—— 日社大同窓会 会長 大橋謙策

● シンポジウム・災害支援活動実践報告とこれから

① 福島県相談支援専門職チームより ② 東北各支部より (交渉中)

③ 被災者を受け入れた立場より (交渉中)

問合せ先

セミナー実行委員会 担当委員小松 TEL.024-951-2594

北海道

日本社会事業大学市民公開セミナー

地域社会福祉シンポジウムのお誘い

テーマ 地域社会福祉の近未来を共に語ろう!

—— 本当の担い手、支え手は誰なのかを考えてみよう

日時：2013年10月5日(土) 13:30～17:00

会場：小樽市経済センター(小樽駅前)

● 基調講演

大橋謙策氏(元日本社会事業大学学長、日社大同窓会長)

● シンポジスト1

木村昭一氏(社会福祉法人はるにれの里理事長、障害分野)

● シンポジスト2 伊藤秀之氏

(社会福祉法人美瑛慈光会地域密着型事業部長、高齢者分野)

● シンポジスト3 田原恵氏

(北海道立子ども総合医療・療育センター「こどもつくる」福祉専門員、子ども分野)

主催：日本社会事業大学、日社大同窓会、同窓会北海道支部

現地連絡先：

0134-51-2311

(塩梅屋内)

※シンポジウムの参加費は無料です



幹 事 会 報 告

去る6月22日(土)開催。別記収支ならびに予算が承認されました。

◆ 主要な活動として、会員名簿作成をすすめることとなった。前回の作成から10余年経ており、この事業を通して、会員各位の就労等の実態を可能な限り把握し、支部活動や同期会活動の基となるものとする。

◆ これと並行して、会報の発刊や送付業務、年会費の徴収方法の工夫、ホームページの拡充などについてもすすめていきたい。

◆ 同窓会業務の日常の対応についての「事務局体制」も大きな課題であり、これについては母校の協力を得つつ、確立したい。

◆ 各支部を中心としてすすめられている講演会やセミナー(北海道・福島など)の成功を旨とし支援する。

◆ なお、懸案であった「原宿会」(同窓会仮称)を『社大同窓会』とすることとなりました。(会報の改称は、次号からとなります。)

2012年度 日本社会事業大学同窓会収支計算書 2013年度 日本社会事業大学同窓会予算

収入の部

(単位：円)

科 目	2012年度決算額	2013年度予算額
前年度繰越金	3,174,798	5,599,649
会費収入	7,021,820	4,800,000
入会金収入	828,000	846,000
利息収入	670	500
雑収入	0	1,000
合 計	11,025,288	11,247,149

【収支差引額】

11,025,288 - 5,425,639 = 5,599,649
(収入決算額) (支出決算額) (翌年度繰越額)

- ◆ 2011年度同窓会運営基金(元会館建設基金) 現在高 23,153,366円
- ◆ 五味基金 23,657,233円

支出の部

科 目	2012年度決算額	2013年度予算額
会議費	114,264	200,000
委員会活動費	167,395	200,000
機関誌等発行費	955,101	2,500,000
通信運搬費	1,150,615	200,000
支部強化費	1,187,180	1,500,000
支部出張等費	264,740	450,000
研究推進事業費	0	-
学内学会助成費	100,000	100,000
卒業記念品費	237,710	300,000
国際交流推進費	70,170	80,000
人件費	599,715	600,000
事務局活動費	209,233	300,000
事務局業務委託費	-	100,000
システム管理費	126,420	150,000
ホームページ関係諸費	90,386	1,000,000
慶弔費	52,710	100,000
予備費	100,000	467,149
基金会計繰出金	0	3,000,000
合 計	5,425,639	11,247,149

Interview with Japan College of Social Work ▶▶▶▶▶ 交友室



畑戸 健太郎(はたと けんたろう)
総務部校友室 室長補佐
東京都新宿区生まれ

Q1 自己紹介をお願いします。

昭和40年11月25日生まれ、巳年、A型のいて座です。趣味は、自転車・空手・1人カラオケ・映画鑑賞・音楽鑑賞。5年前に他大学より転職。2年前より、総務部校友室に異動してまいりました。私は、前職も大学職員です。しかし前職も含め校友室の仕事は、初体験であります。がんばって仕事をしていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

Q2 同窓会への思いを語ってください。

私学にとって卒業生(同窓生)は「宝」です。その「宝」に関わる仕事ができ大変光栄であります。今後は、その「宝」となる人たちのお役に立てるようにがんばりますので、ご指導の程よろしくお願いします。

Q3 最近の出来事

犬を飼いはじめました。家族が一人増えた感じです。



横山 優子(よこやま ゆうこ)
東京都練馬区生まれ

Q1 自己紹介をお願いします。

9月11日生まれ、A型、乙女座、中学1年生の娘と小学5年生の息子と日々奮闘中!アラフォーのシングルマザーです。6年前に契約職員として入職、4年前校友室設置に伴い同窓会のお仕事をお手伝いさせていただきました。

Q2 同窓会への思いを語ってください。

大橋会長はじめ役員の皆様や同窓生の皆さまの社大への「思い」「愛」を感じる社大同窓会はステキです!そんな同窓会のお仕事を多少なりでもサポートすることができたかなとうれしく思います。

Q3 最近の出来事

この度、契約の期間満了に伴い、退職することとなりました。6年間勤務させていただき、短いようで長く、長いようで、あっという間だったと実感しています。在職中、お世話になりました皆様には、心より感謝申し上げます。おかげさまで大変充実した日々を送ることができ、社大でしかできない貴重な体験をさせていただきましたこと御礼申し上げます。

阿部實先生が、ご逝去されました。

去る平成25年3月19日、阿部實先生(母校社会福祉学部・教授)が、享年62歳でご逝去されました。告別式は、平成25年3月26日所沢斎場においてしめやかに執り行われました。

先生は、母校ご卒業生として日本社会事業大学社会福祉学部長、同窓会事務局長等を歴任されたほか、社団法人日本社会福祉教育学校連盟理事を始め地方自治体や各団体の委員会の役職を歴任し、昭和62年4月から厚生省社会局(現厚生労働省社会・援護局)の社会福祉専門官として「社会福祉士及び介護福祉士法」の制定に向けて手

腕を発揮され、昭和63年4月の同法施行に多大な尽力を果たされました。

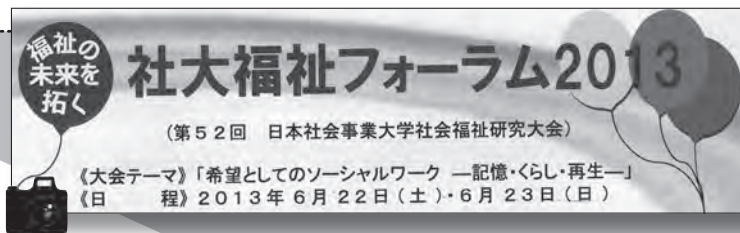
社会福祉研究・教育においてご活躍された先生とお別れするにあたり阿部實先生を偲ぶ会が去る平成25年7月27日(土)母校で営まれました。

先生にお世話になった関係者、弟子達を中心となり、しめやかに執り行われ先生の遺志を少しでも継いでゆこうと誓ったのではないのでしょうか。



大澤愛子氏(木田賞)

スナップ集



懇親会(学会・同窓会・大学共催)

学生研究奨励賞受賞者



三浦博幸氏(木田賞)

サークルセッション



ルポルタージュ

もうひとつのふるさと
美しきコミュニティ

大澤 愛子

旧姓／長谷川
学部24期原宿校舎
正面玄関前にて

横須賀市の障害者・高齢者の地域福祉に関わられているそうですがなぜこの道に？

結婚し、夫の勤務地である横須賀に転居しました。偶然にも地域の掲示板に現在の勤務先である社会福祉法人横須賀基督教社会館(以下社会館)というの福祉バザーのポスターが掲示してありました。社大時代社会館の館長である阿部志郎先生の特別講義を受けたことを思い出して、社会館勤務の傍らボランティアとして関わることとなりました。当時社会館は二十世紀に向け地域と共に歩んできたミニティセンターとしての歴史とキリスト教精神に基づく施設として、自立と連帯のコミュニティの形成をめざし、



阿部志郎先生と

新たな事業展開が図られているときでした。「安心して子どもを産み育てられる社会」「違いを受け入れ助け合う社会」「長寿を喜ぶ社会」皆で参加して助け合う社会」という社会館の基本理念であり目指すべき地域社会を実現するために、地域というフィールドで展開されているミニティケアの実践に触れ、必然とも思えた偶然の出会いから「これぞ我が召命なり」との思いで社会館で働かせていただくこととなりました。

社会館での実践については
どんな思いがありますか

社会館での二十年の間の前半では保育園や学童保育などの子どもの分野、中途障がいの方を支援する障害の分野、そして認知症高齢者の方のデイサービスに携わる高齢者の分野の仕事に従事しました。認知症高齢者のケアの現場を通じて改めて病気や家族の介護問題、人間の

尊厳や人権を守る仕事への関心、そこから更に高齢化社会の問題へと興味が深まってきました。

平成十二年には通信で社会福祉士の資格を取得し、スクーリングの授業では大橋謙策先生の講義もあり、懐かしさと新たな挑戦への喜びを感じとった貴重な機会となりました。

平成十五年八月からは在宅介護支援センター兼居宅介護支援事業所(ケアマネージャー)へ異動、ケアの現場から相談援助職への変身です。一方当時のケアマネージャーは介護保険のサービス調整だけで手一杯な状況があり、ソーシャルワーカーとしての実践が行えているのか自問自答するよう不安な日々が続いていました。

平成十八年、介護保険法の改正に伴い、横須賀市の委託を受け地域包括支援センターでの働きが始まり、施設長兼ソーシャルワーカー(社会福祉士)として配属されました。包括支援センターのめざす地域包括ケアを推進す

ることが社会館が大切にしてきた①地域福祉、②ミニティセンター、③民間性、④キリスト教という思想を基盤とした住民一人ひとりの尊厳ある人生と生活を守り育てるコミュニティの形成、という点でまさに一致した考えであったことは感慨深いです。

学生時代はどんな思い出がありますか？

まず実習が挙げられます。千葉県の館山市にある「かにた婦人の村」への見学実習と松戸市役所の福祉事務所での現場実習です。戦後七十年近く経っても終わらない従軍慰安婦というも、一つの戦後史に触れることが出来、深い学びを得た実習でした。また福祉事務所での学びは授業で生えられない「生活者」としての人間の生きざまと自立を支援することの意味を考えさせられた実習でした。

また三年次の故垣内芳子先生のレクリエーションの授業で行われた山中湖でのリーダースキップと当時助教授

だった京極高宣先生のゼミ合宿が思い出されます。新潟県の南小谷のスキー場で資本論を学び、長野県の湯の丸高原では散歩の途中で遭難しかけたり、府中の競馬場そばの青年の家での合宿など、ゼミ仲間を三十年ぶりに懐かしく思い出しました。

当時将来への希望が持てず勉学に不熱心だった自分も、学生時代は温かい人の縁があったと思います。学生時代の出会いや経験、社会人となり横須賀での出会い、社会館での部署異動で得た様々な経験は、高齢者のよろず相談をワンストップで受けていく、場合によっては他者への人生に介入していく地域包括支援センターでのソーシャルワーク実践に生きています。学生時代を振り返りどんな経験も無駄なことは一つもなかった、この自分を在らしめてもらった貴重な体験と学びだったと自信をもって言うことができます。



3年次京極ゼミ合宿(筆者は前列真中)

今後の抱負をお願いします。

日々の実践から見えてきた課題として、認知症高齢者が安心して暮らせる地域づくり、地形故に閉じこもりがちで高齢者の外出支援と介護予防の普及啓発活動、地域で孤立しがちな男性介護者(独身の介護者への支援、情報の届きにくい高齢者や自らSOSを発信出来ないパワーレズな高齢者へのアウトリーチを伴った支援、定年を迎え地域デビューした男性の力の活用、個人としてだけではなく家族単位で考える総合相談の窓口の必要性など、これら目の前に横たわる課題に対し、包括支援センターは専門支援機関と地域を支える地域の力が有機的に連携できるような繋ぐ役割を持っています。住み慣れた地で高齢者の尊厳ある暮らしが継続できるようにその責務を果たしていきたいと考えています。

プロフィール

おおさわあいこ 東京都生まれ、昭和59年日本社会事業大学卒業。平成6年、社会福祉法人横須賀基督教社会館に入職。保育園、学童保育、障がい者、認知症を含めた高齢者の現場業務および在宅介護支援センター及び居宅介護支援のケアマネジャーの経験を経て、平成18年より地域の高齢者を支える中核的機関である田浦・逸見地域包括支援センターにてソーシャルワーカー(社会福祉士)及び施設長として勤務している。